

学年	教科等	単元名	日時
第1学年	生活科	わん★わん もうすぐ2年生大きくせん (第15時)	令和8年2月6日(金)

1 本時の目標

年長児に分かりやすく伝わるように、伝える内容や方法を見直すことができる。

2 指導過程

学習活動及び学習内容 (★は評価にかかわるもの)	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 本時学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習 ○ 本時のめあて <p>ミッション (幼稚園生を安心させること) が達成できているかどうかを確かめよう。</p> <p>2 学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の流れとゴール * 「ふ」は、ふりかえり <p>たけのこ 「いらっしやい新しい1年生」ごっこ ふ ミニわん★わん会議 改善点の確認、改善案の検討 改善点の報告 まとめ→ふ かえるタイム 次時への思いや願い ゴール: 「幼稚園生が安心できる内容や方法になっているかどうかを確かめる。」</p> <p>3 「いらっしやい新しい1年生」ごっこを行い、気付いたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝えたい内容 (方法) 【例】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の施設や教室 (地図屋さん) ・ ランドセル (ランドセル屋さん) ・ 教科書の内容 (本屋さん) ・ 給食 (レストラン) <ul style="list-style-type: none"> ○ よかったところ、改善したほうがよいところ <p>4 気付いたことを伝え合い、改善案を考える。(★)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 改善点→改善案 (同じグループ) <p>ランドセルを背負って、にこにこしてくれて嬉しかったね。 Aさん</p> <p>そうだね。でも、背負うだけでは、つまらないよ。もっと楽しくなる方法はないか考えてみたいな。 Bさん</p> <p>ランドセルに教科書を入れて、靴箱まで歩いてみたら、もっと楽しくなるかもしれないなあ。 Aさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 助言 (異なるグループ) <p>「説明が分かりにくいよ。」とカードに書いてくれたけど、どうしたらよいのか教えて。 Cさん</p> <p>給食の野菜が心配な幼稚園生に、給食はおいしいことを伝えたいのでしょうか。それなら、写真を見せたほうが分かりやすいと思うよ。 Dさん</p> <p>なるほど。写真を見たら、おいしいことがすぐに伝わって、安心してもらえそうだね。 Cさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 改善案の報告 <p>Dさん、献立表を調べたら、おいしそうなおサラダの日があったよ。野菜が苦手な幼稚園生も安心できそうだから、その日に写真を撮るね。 Cさん</p> <p>5 本時学習についてふりかえり、次時の予告を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふりかえり、新たな思いや願い <p>ランドセルに教科書を入れたら、幼稚園生には重すぎるかもしれないから、試してみたいな。 Aさん</p> <p>わん★わんレストランのシェフにインタビューをして、もっと安心できるような話を聴きたいな。 Cさん</p>	<p>「自律的に学ぶ」ための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流活動の1週間前になったことを伝えた後、「準備は終わりましたよね。」と尋ね、立ち止まる機会をつくることで、準備の状況を想起したり、確かめたいという思いをもったりすることができるようにする。 ○ 活動の流れやゴールを示し、「何のためにするのか。」と問いかけることで、目的を確認し、内容や方法が年長児の思いや願いの実現につながっているのかを見つめ直すことができるようにする。 ○ ミニリハーサルを行い、1年生と年長児、それぞれの立場を経験させることで、伝えたいことがきちんと伝わっているかどうかを確認し、内容や方法を見つめ直すことができるようにする。 ○ 改善点や助言の書かれた学習プリントを店ごとに集めて、確認する時間を設けることで、多様な考えにふれ、よさに気付いたり、よりよい方法を見いだそうとしたりすることができるようにする。 ○ 伝えたいことに関するインタビュー結果を座席の近くに掲示しておくことで、想起して改善点に気付いたり、紹介の内容や方法が合っているのかどうか立ち返ったりすることができるようにする。 ○ 活動が止まっているときには、理由や改善点を尋ねて、思いや願いを引き出す。そして、助言を生かしたり活動をふりかえったりする姿を認めることで、協働して学ぶ楽しさに気付くことができるようにする。 ○ 自由に交流し、経験を基に助言したり、活動を比較したりできる時間を設けることで、よさや新たな改善点、改善方法に気付くことができるようにする。 ○ 活動前に、「助言をしてくれた相手に、後で、考えた改善案を報告しましょう。」と伝えておくことで、課題を意識しながら、改善案を考えたり、改善の過程をふりかえったりすることができるようにする。 ○ 「どのくらい達成できたかな。」と問い、本時の活動をふりかえらせることで、伝える内容や方法、学び方を見つめ直すことができるようにする。 ○ 新たにやってみようと思ったことや、その理由を尋ねることで、活動の様子を見つめ直したり、必要な情報を集めようとしたりすることができるようにする。

3 本時の評価規準

年長児のことを思い浮かべながら、年長児が安心できるように、伝える内容や方法を考えている。

(思考・判断・表現)【行動観察・記述分析】

4 板書



5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 大峯 隆史 副主幹

- 本時は、学習指導要領の趣旨を深く捉えた、意義のあるものである。学習指導要領では、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をふまえた指導を工夫して、幼児期の遊びをとおした「総合的な学び」から、小学校教育へ円滑な接続を図ることが求められている。「ごっこ遊び」やミッション達成型等の活動を展開しているところが、子どもの主体性を引き出すという点で、非常に効果的だった。このように、幼児教育で育まれた資質・能力を小学校でさらに伸ばし、生活科の学びを総合的な学習の時間「わかたけ」における探究的な学びにつなげる。そういう視点で「たけのこ」学習を構築したことは、低学年の学習のモデルケースと言える。
- 本日考えた改善案を実践することで、本当に年長児に伝わるようになったのか再び試したり確かめたりする場面を設定することが大切である。ただ単に「修正して終わり」ではなくて、修正したことで、相手の反応がどのように変わるかということに気付かせたり実感させたりすることが、次の探究心につながっていく。このような改善案の検証プロセスの明確化について、究明する必要がある。
- 本時のように、子どもたちが「もっとこうしたい」という思いや願いをもって、試行錯誤して、自分の行動によって年長児の反応が変化するという手応えを感じるプロセスが、探究的な学びの出発点であると思われる。生活科は単に知識を習得する教科ではなく、自分と対象とのかかわりをふりかえりながら学びを調整していく教科である。本実践における「遊びをとおした学びの構造化」は、深い学びを具現化するものである。

6 考察

【研究内容1：幼児教育と小学校教育がつながるための手立ての在り方】

手立て① 幼児期の学びを意識した単元構成や指導計画の工夫

2年生や年長児との交流活動をとおして、入学前やこれからの自分を省察の対象としたことで、成長を実感することができた。2年生から「2年生」について教わる経験をした後、年長児に小学校について教える活動を設定したことで、経験を想起して、活動に見通しをもったり、相手の立場や気持ちに共感したりすることができた。

手立て② 「遊び」の要素を取り入れた学習活動

年長児に小学校のことを紹介する活動を「わん★わん商店街」の「お店」で行うと設定したことで、前回の交流活動「秋のお店屋さんごっこ」を想起し、家庭で看板を作って持ってきたり、自分たちでリハーサルを行ったりするなど、活動に見通しをもち、自発的に行動する姿が見られた。

手立て③ 小さなふりかえりと大きなふりかえり

学習プリントに、ふりかえるきっかけになったものを記入する欄を設けたことで、「小さなふりかえり」を自覚することができただけでなく、学び方やふりかえり方を理解し、本時をふりかえり、次時につなげることができるようになった子どもが増えた。